

裁培  
經濟論

佐田介石

特25

41

040296-001-7

特25-41

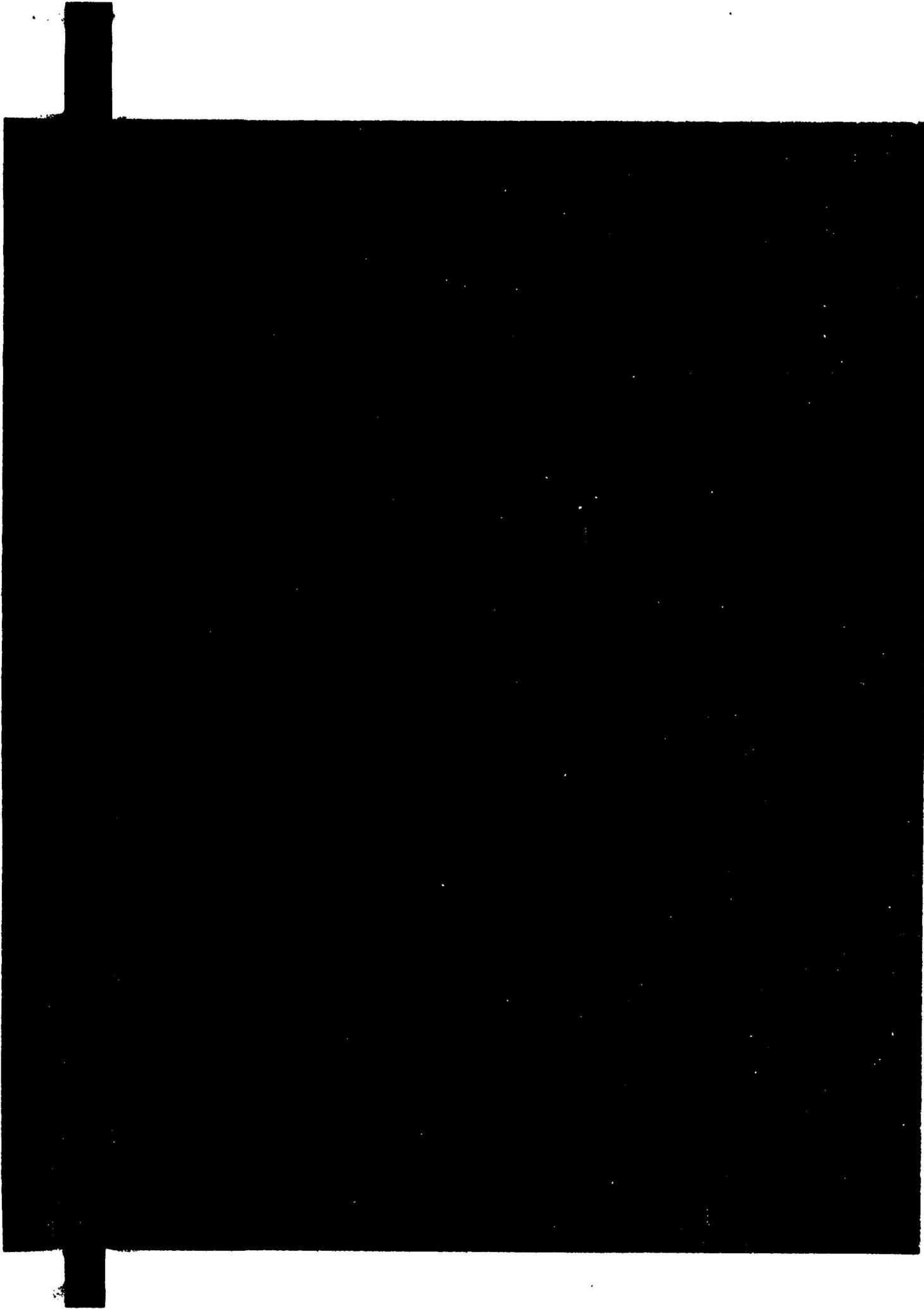
裁培經濟論

佐田 介石/著

M14.5

BDD-0380





第25

198  
1  
132

# 森塔經濟論

田介石著

定價七錢

初編  
發兌  
大阪  
綿喜

栽培經濟論初篇標目卷之上

一、總論

二、富の裁ゆざれを不<sup>そだて</sup>培養せざるに繁<sup>はん</sup>殖<sup>しょく</sup>あらざるの論

三、國と富との法に必ず永續の末<sup>はて</sup>を先見とべきの論

四、天地間の万物一として無用の物なきの論

五、大益大用の無益無用に似たるの論

栽培經濟論初篇卷之上

佐田介石 撰

〇一 總論

我朝經濟を論ずるもの徂徠太宰そらい さいざいは始まり相次で中井積善なかゐり せきぜん頼山陽の徒之に繼ぎ近世きんせいに至り倍々多し孰たれも皆勤きんめたりと謂べし然れども皆是れたい法と論じて術に亘わたらず譬へを醫の藥を論じて病と論せざるが如し藥こそ是を死物病しぶつびやうは是れ活物くわつぶつなりとて同じ病名と雖も百段ひゃくだんの輕重あり一日の間と雖も時々刻々よその症しやうと變ずるものゝその變を應じ藥と與へせんば有るべからず是を一藥の治すべきところあらず經濟も亦然り法は是を死物なり術こそ是れ活物なり夫れ死物の活物お使つかひる、也へ活用すべき能ありもし死物を以て活物と使役しやくせむ活物も死せざるを得ず活物の定まり亦く活動する也へ時お應じ處に應じ或あるは氣候も應じその變なきこと能はずその變あるものゝその變も應せせんば有るべからず是れ同一の法と以て之を治めがたしその變とい何

ど曰く時と處と氣候と人質と物性との五種なりうの時とハ時世の變つてハいせも  
古今の別盛衰の別興廢の別あるものあり譬へハ岷山の下よてハ僅ハ鴈を濫るやどの  
小流亦もせも楚よ至てハ大艦を並べ泛る大水となきり而るとその大流小流の勢異あ  
るを顧みず岷山の下の小流を渡るが如く楚江の深さと歩涉を致さむ安んぞ溺死せざ  
るべけんや故にその大小の勢異あるを察せずんを有るべからむ時世の古今の勢異あ  
るも亦この理も同じ古ハ小なり今ハ大なりそれ大小の別も應じて經濟の術と施さず  
んば安んぞ溺死を免るべけんや上代中古の事ハ措て論せず先づ二百年來の時世の變  
とみるも徳川家舊津輕侯を封するるとき彼の津輕領と檢地するも四万七千石に過ぎませ  
而して今日の開拓は凡う八十万石も及ぶと云元の各藩の開けさること大抵之も准す  
べし細川越中守豐前の小倉より肥後の國も移されし時肥後の人口十万余満たざりし  
も今日の人口ハ凡そ八十万も及ぶと云元ノ各藩共も二百年以來の人口の殖えたるこ  
と大抵之も准すべし土地の開くる人口の繁殖すること如此あるときハ物産風俗の開

けたることも亦之も准すべし然るを經濟の術も古今大小その勢の異なるも應せずん  
を有るべからむ以上ハ時と處の別とは風土の變ありいわゆる山海の別都部の別城  
市郷市の別地膏壤の別の類ありこの風土の別ハたハ他郷他國のみに限るあむらず  
一郷内にも一概よ治め難きことと西京の内も三條の宿屋ハ上客のみにて宿料六  
條に倍と六條ハ下客や貧民を目的とするもへ兩本願寺參宿料三條の半價より下れり  
而るに管し三條六條一般よその宿料と平均あてて同價あせんと議するものありその  
時三條の宿屋ハるれ宿料の下がると憂へ六條の宿屋ハその宿料の上かると喜べり若  
し如此の事に至らむ立ちどころも本願寺參詣の人民それ宿料の費さに驚き二三泊と  
べき者ハ一泊せずして折返へしむ立ち去り五泊七泊すべし者ハ一二泊あて立ち去る  
るもへ忽ち六條の宿屋大に疲弊あはむんこと鏡を掛けて見るよりも明かあり是を以  
て竟もその議止みたることあり是をたい西京のみならず東京大阪の如きも一府下  
の内も如此風土の慣習の別ありこと能はず同郷已も然り况や他國他郷とや西京と

阪とは目と鼻の如き近き間たなれども衣食住より婦人の髪人民の言語まで大異な  
 れり肥後と薩摩との境一重の鄰り國をも是を又衣食住より婦人の髪人民の言語  
 の異なる外國の如しりの甚まきに至ては容貌までも異なり是れ皆風土の別に應じ天  
 賦の然ら令るところを人心力にて之を改めがふ一若し強て改めば果ててその害  
 と生ずべし我 皇國一國に於けるさへ如此百種の風土の別あり況や他邦に於けるを  
 や假令以亞細亞一國と雖も支那の支那印度の印度その風土の別千差万別ありてその  
 風俗人物の異なる輿地誌等も擧るが如し是れ天賦の然ら令るところあり天賦の  
 力にて改めがたし假令以強て改むるも一時よりて永く持たず必ず舊復せざるを得ず  
 昔し印度は國王あり鴉毛と白く染めたりこの薬のためは巨萬を費す而るも鴉毛の年  
 々之と易ふる毎本黒きを復せば鴉毛の黒きと限りなし國王の金貨は限りあり  
 故に國王の力つきて國大に疲弊を生じたり是れ國王の威力と雖も天賦として異なる  
 もの改むること能くざるありすや是れたゞ鴉毛のみならず鷲羽を黒く染むるも

亦必元の白きを復せば天賦の改めがたきこと百事皆然り人力と限りあり天賦の  
 限りなきもへ假令以無理推し致すともりの威力久く持つこと能はずれば威力つくる  
 日よ至るに百の華佗の扁鵲の如きも雖も治療及ばざるに至るべし故に未然に遠く慮  
 からずんむるべからず由此經濟家のその天賦として異なるどころの風土の別を深  
 く察せせんばあるべからず以上之處の 其の氣候の別は是れ寒暖の別なり其の寒暖  
 の別は由て土地の肥瘠の別あり物品の美惡の別あり氣力と勤惰の別あり人質の強弱  
 の別 中庸に南方の強と北方の強との別を論じて あり此等の皆氣候の然らむるも  
 ころあり亞細亞と西洋との小異のりの數限りありと雖もりの大に異なるもの凡り  
 二十餘種の別ありその別と生づる濫觴悉く氣候より出でざるをなし我 皇國內に於  
 けるも北國奥羽の寒地と四國九州の暖地との別に由て物産の異なるもの多し是れ皆  
 氣候の別に由る經濟家の注意をべきところあり 以上氣候の 其の人質の別は各國百  
 工の技藝の異なるものありありの亞細亞の指頭製は長し西洋の器械製に長する類

是れ皆天賦の爲すところなり之に就て精論あれども、蓋しがさし以上の人  
論すその物性の別と蓋し阿州と上等とし烟草タバコの齒磨歯磨。米の肥後筑前。蠟ろうの會津薩摩。  
 茶と城州を上品とする如く何處よても産する品なきともその惡品と好品の別と能く  
 察し且つ又尾張大根の尾張の外に産せず河内の國の細根大根と河内の外に産せざる  
 類めて御種人參と何國の限をり眞珠類と何處の國に限れど三十五種の藥石の何處  
 の國に限れり藥物の何處の國に限れり丹青石と何處に限れどといへる如くその國と  
 の處に限りて外に産せざる品ありこの物品の性の好惡の別あるものと又此の地あり  
 産して彼の地よと産せざる品あることを知る是れ又經濟家の注意すべきことなり以  
 上舉るところの時と處と氣候と人質と物性との五種の別よ於て種々の變ありその變  
 り應せざるを得ずも一貫してその變と顧みずんをたゞ益あるのみならず大害  
 に生ずべし夫れ經濟といひ經濟の義なり古人語を設る零を好むへ經の一東西と  
字と舉て緯の字と零たるなり 經と云ふ南北と緯と云ふ濟波といひ船筏ふねよてこの岸よりかの岸へ濟わたの義なり故に濟波と

往來することあり由て物品と金貨とと東西南北の人民の間だに滯りなく往來せし  
 むるを經濟と名づく然れを經濟といひ四方の人民の間だに金貨物品を滯りなく往來せ  
 しりいっせう融通の道を開くことあり故にこの時と處と氣候と人質と物性との五種の別よ於  
 て種々の變あるよと明かならざるを金貨物品とよて四方の人民の間だに往來せし  
 むるよ就て必ず滯りを生ずその融通塞がらざるを得ざるべしこれ五種よ於てりの變  
 あるものよ譬へば病症に變あるか如しもしその病よ變あるよと知らずんばりの變  
 よ應じて藥を與ふること能はずもりの變よ應じて藥を與へすんを何を以てその病  
 療えべけんや經濟法も亦この理に異あらば右の五種各々の變ありもしりの變に應  
 じて金貨物品として四方の人民の間だに往來せしむる法よ興さずんを何と以てこの  
 今日の人民の疲弊を救ひ且つ國を富まし民を豊かよするに至らしめんや故に經濟の  
 道みちの病を先きよ知て後よ藥を與ふる如くよの時と處と時侯と物性との別を先きよ知  
 てその五種の別よ應じ而して後その法よ行はずんを有るべからず是を經濟を行ふべ

き順序なり

○二の富と裁えされば不<sub>レ</sub>育<sub>レ</sub>培養せざれば繁殖ならざるの論

善<sub>レ</sub>の求めて得<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>く悪<sub>レ</sub>の求めずして来る天下の百事悉く然り故<sub>レ</sub>善は勉めて裁えざるを得ず悪は勉めて変らざるを得ず喻へば良草は勉めて裁えざると育ちがたし悪艸は変れども除<sub>レ</sub>さ<sub>レ</sub>がたし良知良能の勉強苦勵して得がた<sub>レ</sub>く悪藝悪能は稽古修行せずして得易し病<sub>レ</sub>の求めずして来る健康の求むるも得がたし貧富も亦然り天下の人誰か一人として貧を求むるものあらんや而して十<sub>レ</sub>の八<sub>レ</sub>の貧あり富の十人の一人あから之を願ひ求めざるものあし而して富めるもの千<sub>レ</sub>の一<sub>レ</sub>も有りがたし是れ富の得がた<sub>レ</sub>もへんあらずや然らば富<sub>レ</sub>と棄て置きおしては得べきものにあらず稻<sub>レ</sub>麥<sub>レ</sub>と栽ゆるが如く勉めて植栽せずんを有るべからず一家の富尙然り况や全国の富とや之と栽えずんばあるべからず又裁<sub>レ</sub>ぬて之と得べきもの<sub>レ</sub>の培養なくして育ちがたしその培養の厚薄よりその益と得るも多少あり蓋しこの培養法にい<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>一粒万倍の益を得るも

の<sub>レ</sub>あ<sub>レ</sub>る<sub>レ</sub>が<sub>レ</sub>少<sub>レ</sub>く費<sub>レ</sub>んて多<sub>レ</sub>く利を得べきものあり故<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>倍<sub>レ</sub>上<sub>レ</sub>がりよて一<sub>レ</sub>錢<sub>レ</sub>たりども肥<sub>レ</sub>糞<sub>レ</sub>のため<sub>レ</sub>は費す<sub>レ</sub>同<sub>レ</sub>じその利を得るよとも亦之よ十倍或は百倍すべし然<sub>レ</sub>よこの培養の生ずる益の遠大ければ眼前<sub>レ</sub>も見<sub>レ</sub>が<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>前年の寒中の肥<sub>レ</sub>糞<sub>レ</sub>の翌年實を結ぶよ至<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>ざるば知れがたし故<sub>レ</sub>素人の培養のよめ<sub>レ</sub>は金貨と費すことを惜む<sub>レ</sub>もへ<sub>レ</sub>或<sub>レ</sub>は木<sub>レ</sub>と枯<sub>レ</sub>ら<sub>レ</sub>或はたとひ實と結ぶといへ<sub>レ</sub>もその實瘦せ且つ少<sub>レ</sub>け<sub>レ</sub>ば利を得るよども大<sub>レ</sub>少<sub>レ</sub>し全國を富すの法も亦この理に異あらず培養の費を厭ふときは決<sub>レ</sub>て國と富すべきものにあら<sub>レ</sub>と全國の大<sub>レ</sub>經濟を行ふもの注意すべき事<sub>レ</sub>こ<sub>レ</sub>よあり蓋し培養は是れ與ふるの道なり實を得るは是<sub>レ</sub>を奪ふの道なり先<sub>レ</sub>き<sub>レ</sub>は與へ後<sub>レ</sub>よ<sub>レ</sub>を奪ふべきことと天地自然の常道なりも<sub>レ</sub>一<sub>レ</sub>た<sub>レ</sub>い<sub>レ</sub>與ふることを致さず奪ふのみのことばたとへ<sub>レ</sub>は<sub>レ</sub>油<sub>レ</sub>糟<sub>レ</sub>を絞<sub>レ</sub>り取<sub>レ</sub>て再び油を求るが如し終<sub>レ</sub>よその利安ん<sub>レ</sub>ど得<sub>レ</sub>べ<sub>レ</sub>けん<sub>レ</sub>や是れ大<sub>レ</sub>欲<sub>レ</sub>と以て大<sub>レ</sub>損<sub>レ</sub>を招<sub>レ</sub>く<sub>レ</sub>の法なり故<sub>レ</sub>全國の大<sub>レ</sub>利<sub>レ</sub>と計<sub>レ</sub>るもの<sub>レ</sub>の欲<sub>レ</sub>と去<sub>レ</sub>て惠<sub>レ</sub>與<sub>レ</sub>の道<sub>レ</sub>を天下<sub>レ</sub>よ布<sub>レ</sub>き行<sub>レ</sub>はずん<sub>レ</sub>あるべ<sub>レ</sub>からず惠<sub>レ</sub>與<sub>レ</sub>の道<sub>レ</sub>と厚<sub>レ</sub>く行<sub>レ</sub>へ<sub>レ</sub>と<sub>レ</sub>の得<sub>レ</sub>るところの利<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>よ<sub>レ</sub>万<sub>レ</sub>倍<sub>レ</sub>とい<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>も<sub>レ</sub>一粒<sub>レ</sub>万<sub>レ</sub>倍<sub>レ</sub>の法<sub>レ</sub>よ

あらずや是れ欲を去て却て大欲を行ふの道ぞ

○三ノ國と富す法ハ必ず永續の末を先見すべきの論

一人一家の産と治むるす先見と要せずんば有るべからず況や天下國家の大産を治め大富を興す焉んぞ先見なきよとを得んやその先見どの何ぞ曰くその行ふとよるの法永續すべきや否と能く豫め見定むることあり爰は人ありて曰く一家一村の産と興し富を求むるのその先見を立つべし全國の廣大ある産と興し富を求むる焉んぞ先見を爲すべきことを得んや行き形は任せ勉強保護するの外別は術なしその内は自然な永續の方法發明するに至らん僕思ふよこの説大は不可あり千里の遠さよ兵と出すものハ必ず先づ帷幕の中にお在てその兵と出せお先んじて勝算を立ゆ而もて百戰百勝の策定まりて後その兵と出す是を以て凱旋の功と奏と是をいひもる先見の實功あらずや今も一全國數千万人の産と擔當して大經濟と行ふよ方て百行百中の確策あく行き形に任せ盲索ふその法を行ひんハ喩へば眞の暗夜は無提燈もて險隘の泥路を行く

よりも危しも一偶然として永續の方法立つことよも至らざる僥倖とも云べきことなきども若し万一永續の方法を設て倍々救ひがたき疲弊と累ねしめを挽回しがたき災害を醸るにあらざるや右様二つ取りの危き法ハ天下國家の大任と擔當するもの、行ふべきことにあらず大國の人民の永世の産と立て富と興す實難中の難なきば假令ひりの先見をなすと雖も尋常一樣の先見よての企て及びがし問て曰く今日斯る疲弊と興し百歳の末よ至て倍々富と興さんよと如何ぞ先見せる理あらんや答て曰く今日も在て百歳の後と雖も二百歳の後と雖も何ぞ之を知るべき理あからんや百歳後と知るのその知るべき法有て之を知る故よ之を知るの難きあからずその難きハ百歳永續の富と興すとよるの法あり問て曰くその百歳の後と知ると何ぞ答て曰く是れ即ち比例法なりその比例法は依らざる百歳の後と雖も二百歳の後と雖も毫も差はず知るものありその比例の仕方ハ已に知ることハ比例して未だ知らざる事を知り目よ見えざる事ハ比例して未だ知らざる目よ見ざる事と知る是れ比例法ハ妙術あらずや

若し百歳以前み在于て百歳以後の事と知ること能ひんを何ぞ以て之を比例法と名づくべきぞ已に目前の事と比例して百歳以後の事まで能く明かす知らるゝもへよこそ比例法と妙術ととるみ非ずや故よよの比例の理と以て推し量るとさる百歳や二百歳の後と雖も何ぞ之と知るべき理かからんや然とせも今日との富と興す姿の見ゆべきものあつて百歳の後必ず大富と致すべきことを知るべき理めさども今日富を興す姿の見えざるものあつて百歳の後に富と累ねることと比例して知るべき種ありその比例すべき種なくして何と以て百歳の後を知るべき種あり故に今日の二葉の富國の方法大木に至て善香を放つことを比例して知るべき種あり故に今日の二葉の富國の方法ふ於て百歳永續とべき實效の見ゆるものあらば之は比例せばたとひ千載の後と雖も何ぞその富國と興すことを先見すべき比例あからんやその百歳の後の比例法とて下に陳述するどよる毎章皆その比例法なり

○四よ天地間の万物一とて無用の物ありの論

天地の間に存するものその形有るも形無きも一として無用の物なし悉く是れ有用物ならざるはなし老子に嘗て其無<sup>二</sup>有<sup>一</sup>有用<sup>二</sup>有<sup>一</sup>之用<sup>一</sup> 老子に有用と車之用あり 老子に有<sup>二</sup>無<sup>一</sup>有<sup>二</sup>有用<sup>一</sup>の論 今故あてて之を改む と云へるもの 是を信すべき語あり有<sup>二</sup>有<sup>一</sup>の用あり無<sup>二</sup>無<sup>一</sup>の用あり故に天地の間一として無用の物あり世の中み人の最も惡むよとの甚<sup>一</sup>きは是と死と貧とみあらずや然ととも死の世に大益あるをいへて生の益より一步も下らず貧の世に大益あるを語れば富の益より一步も下らずの故何とあをもし天下み死の道なくしてよ<sup>二</sup>生の道のとさる<sup>一</sup>に終る一家の人口にて一村み滿ち一郡に滿ち一國に滿ち而して後天下とゆくし親族子孫を置くべき地あらず若し然らば天下國家一一家の親族子孫の天下國家よて他家他村他郡他國の人を置くべし地な<sup>一</sup>世上の迷惑幾くなりや然<sup>二</sup>世<sup>一</sup>死の道存するよよりてたとひ百年二百年と過ぐと雖も權兵衛が家の元の權兵衛が家にて鄰家の八兵衛が家を妨げず故に死の益をいへて生の益より毫も劣るよあらず又貧の世は益あるよとをいへて王公大臣の貴きも貧民その婢僕とありてその用を助くるもへよ

その貴さを至せりもし婢僕ひやくとなるべき貧民あくして帝王手ていおうから飯めしを炊たき箒はらきを把とて席せきを掃はらひ玉たまひ大臣手だいじんから馬車ばしやの別當べつたうとつとめ靴くつ掃除そうじまで致いたすことならず帝王もその貴さを失うひ玉たまも大臣だいじんもりの位ゐを落おさん然しかんと天下てんかの貴あさを顯あけし是れ貧の功いひあらずや又百町の田たと耕たがす大農たいのうも婢僕ひやくとなるべき貧民いひんあけれその耕種くわんじゆ收穫くわいの功いひと奏そうすること能よりざるべし或あるは三井さんせいや大丸だいまるの如ごとき大店だいてんも百婢ひやく百僕ひやくありて千せんぎ万客まんかくの商用しやうようと辨わするよりて今日けふの大富だいふと興おことお至いたり病夫びやうふと遠とほさは送り重擔じゆうたんと千里せんりあ達たする一として貧民いひんの力ちからにあらざるとなし貧いひよよとて貴あさを顯あけし貧いひによとて富ふを興おこし貧いひよりて用もちと辨わするるとき貧の世よ益えきある一日半時いちにちはんじも缺かくべからざる必用ひつようのものあり故ゆに貧の功いひを擧あげれ富の功ふより一步いっぽも下くだらず或あるは山やまふ樵せうし海うみふ漁りし園うふ踏ふしその魚いし貝かい炭たん薪しん菜さい蔬その類るいと或あるは産うし或あるは負擔いふんするの勞らうをみすもの一として貧民いひんにあらざるにかゝ又酒さけ。酢す。味噌みそ。醬油じやうゆ。等の飲食おんじの品しんを製つくるとするの勞作らうさくとあし或あるは家宅けたくを造つくり舟車ふねぐるまを造つくり且かつつ下駄くだ草履くさぢの類るいの百工ひやくこうの勞務らうむとみす悉ことごとく是れ貧民いひんよあらざるべし

し天下の人として悉ことごとく富饒ふじやうならしめば難がたか霜雪しもゆきの朝海水あさうみづ凍こめて漁りし草露くさつゆふ冷ひやえて樵せうし或あるは六七月ろくしちがつの炎暑えんじゆよ汗あせを流ながして負擔いふん春はる汲ひの勞務らうむとなすものあらんや貧賤いひんけんのもの有あれをこそ右様ごうさまの作務さくむの用もちと辨わするにあらんとや貧の國家いひんこくに益えきある實まことは大なるよあらずや問とて曰いはく死しと貧いひとの國民こくみんよ大益だいえきあるりの能よくはへ生なと富ふとの兩功りゆうこうも毫こも劣せらざることをの理こと能よく聞きへたり然しかも病びやうや蚊あや暗夜あんやの如ごとき類るいのもの之實まことは無用むいようなるへし若しし然しかんと世よも無用むいようの物ものあり何なにぞ無用むいようのものあしと云いふべけんや答こたへて曰いはく病びやうや蚊あの類るいの本もと來きた無なけをむりの無なさより善よさいなけをとも苟なも世よも存ぞんして外ほかも遣つかるべきところあけれむりの自然じぜんも天地間てんちかんも存ぞんするところのその儘ままも任まかせて有用ゆうよう無用むいようと論ろんせずんば有あるべからず若し然しかんと病びやうひの國くによ於おて何なにの益えきを生なずるといへば草根くさこん・木皮もくわ・草葉くさえ・菓實くわじつ・魚鱗いしりん・虫貝むしがい・禽獸きんじゆ・止石とどいしの類るい百七十七品ひやくしちじちしんを藥物やくぶつとなさしめ之より毎年利としごを生なずること幾いく百万ひゃくまん山やまあるを知るべからず若し病びやうあらずんば右の品しんも無用むいようの廢物はいぶつたるべし然しかも病びやうも亦是またれ有用ゆうようの一ひとならずや又暗くらい何なにの益えきを生なずるといへば魚燈いしとう・菜な

油・蠟燭・行燈・燭臺・桃提・石燈籠・金燈籠・類の物品より毎年數百萬圓の利を生ずるもの悉く暗夜よア生ずる利ありざるのよし蚊の何の益を生ずるといへんその小ある利といへば毎年蚊カの蓄物クより利を生じその大ある利といへん全國の人口イ毎二帳三帳より十帳十四五帳の蚊帳を用るがため毎年蚊帳より生ずる利も幾百萬圓なるを知るべからず暑の何の益と生ずるといへんその小ある利の砂糖水・氷水の商法と興しその大ある利の全國の人民皆單衣帷子と新製するがため幾百萬圓の益と興せるや或の西瓜・甘瓜・桃・李・豆茶・麥茶・あとの納涼の具或納涼場の利と興ると是れ亦幾百萬圓あるを知らず寒の何の益と生ずるといへん絹服・綿服の冬衣の上着・下着・胴着・羽織・襟巻・足袋・夜着・蒲團・坐蒲團類より毎年利を生ずるよと一千萬圓以上に及ぶべし尙その上へ炬燵・火鉢・手爐・懷爐・炭・薪等の寒を防ぐ品より生ずる益も亦幾百萬圓あるを知らず是れ皆嚴寒より生ずる益ありとや如し此死といひ貴といひ病といひ暗といひ蚊といひ暑といひ寒といひ悉く是を世人の最も憎嫌ふ

ところの品ありともその國益をあたに至ては無用と云ふべからず世人皆その有用の末のみと見てその有用の本と忘る故ありの有用の本と無用として棄るふ由て終にその有用の末も亦廢物とありざるを得ず故未益と收りんとするものはりの益を興との本と忘るべからずその本と忘れざるに至て始て世は無益のものありと知る昔し千の利休雪駄と發明せしより久く廢たきて無用の一等たる竹の杖簞が上々品と相成り却て杖簞の價十倍し大益の品と進めり又漆器を製する道が全國に盛れ開けしより之を棄んと欲してその棄て處ありしところの砥石の折屑鉄屑や削屑が却て一日も飲くべからざる必用の品とされし砥山イひて砥と製するみ出るところの屑殊も夥の砥屑と細抹イし之と砥の紛イと然る漆器を盛る用る道開けたるよとてそ名づけ漆を用る必用の品とせり如し此無用の品ありしものと有用の品と化すると此の世の無用あるべからずもし無用として棄るときは世に有用のものあるべからず是れといひ物品のたまらず人も亦然り棄て用るふ至ては無用のものあり昔し陶侃木屑竹頭と貯へ世人の棄る品を以て有用に用ひたるこの類あり已に世は無用の物ありと

知る故に相次で大用の無用に似ることと知るべし

○五、大益大用は無益無用に似ることの論

大益大用の無益無用に似ることを知らざんと小益の國家の大經濟に於て大害となすところの眞理と知ること能はず然るこの大益の無益に似大用の無用に似るとよるの理を知らずんば眞の富國の大策を行ふこと能はざるべし今日面と世人の器々然と唱ふるところ多く一家一人と富まその小策にて一國を富まその大策にあらざ故に口に富國と唱へ乍ら其所爲を見れば皆是れ富家の策にて富國の策にあらざれば富家の策と以て之を富國の策に充つるの譬へは裏店の貧商の商法と以て大丸や三井の如き豪商の商法は供するが如し安ど大損失の害とあらざらんや是れ皆大用の無用に似るの理も暗きが致せるところあり故に全國と富すの大策と行ふんと欲せむ先づこの大益の無用に似る理と能く明しせずんば有るべからず問て曰く大用の何也へは無用に似たるや答て曰く小益小用と眼前より見て見易きもへうは益たるを知り易

辨明せども大益大用の暗は林のれせ目前に見難きものへその益を知らず譬へは暗夜の泥路を通ると死に強の挑燈を貸したる馬と永く忘るされども毎日日光の暗と照らすとよるの恵と誰か之を思と知て忘るものもらんや是れ日の日光の恵みの大思のものへは人之を知らず或は乘輿にて霜朝の河を渡されたる思の生涯忘るぬはどに有り難く思へども橋と架せ渡されたる思と誰り之を有り難がりて通るものもらんや孟子の人あり乘輿を以て渡りて乗輿にて渡したる小恵のものへは其の思を知れり橋と架て渡したるは火恵のものへは其の思を知らざるなり世人その小益小用は益と知て大益大用と益と知らざるものこの類あり問て曰く大益大用と何也へは知りながらや答て曰く大益大用と三事のものへは常人と知るものと能はずその三事といへは暗行のものへは知ること難し二は傳行のものへは知ること難し三は散行のものへは知ること難し先づ暗行のものへは知れなかつたしと大用大益の暗は行くる、もへは乘目に見えがたし小益小用の顯行のものへは傳行のものへは知れがたしと大益大用の必ず衆人の手に衆人の目に見易し

と徑て廻りくして相傳へて行ひる、がゆへに知りがたし蓋し傳行といひ直行の反對はんたいよ  
 て目前に右から左へ手渡し致す如きを直行と云ふ小益小用と直行の故に知と見し傳  
 行するものと廣く万人に渡りて相ひ傳へて行ひる、ゆへに顯あきひ目に見えず故に知と  
 がたしらの散行のゆへに知ること能はず夫を散行といひ集行の反對なり集行とするもの  
 の假令ひ十圓が二十圓の金と雖も之を集めて一人の利とするゆへにその利あることを  
 知れどもその散行とするものと設たてへて一千万圓は大金なれども之を全國三千五百万人  
 に分ち散らすに後うしろ一人宛あて二十八錢六厘の配當ゆへに雖も之と大利を得たりと思ふも  
 のゆへにやらの集行とするものには僅か十圓をきともその利あることを知りその散行す  
 るものは一千万圓の大金をきともその利あることを知らざるの廣く衆人に分ち散ら  
 せゆへに實じつて淺草の觀音を取り除けかの境内けいんに茶桑ちさくわを種くわえ以て利と興おこすに後多おほくの  
 國益あらんと購するものゆへに就て大益の無用な似たる論をこゝにふ出さる淺草の  
 觀音へ日々奉納するもの平均して十万人餘とすその十万人餘人日々平均して二十五錢

宛あてに廻まわひ來りるとすれど、或あるは酒と飲み飯と食ひ或あるは茶と香かみ菓子と食ひ或あるは揚子店  
 返共かへり乗る如ごとくの費とあそ中ちゆうに或あるは二圓或あるは一圓五十錢或あるは一圓或あるは  
 二十五錢或あるは十錢や五錢もあるべし因て之と平均して二十五錢とす 毎日々々二万  
 五千圓となるなり故に一ヶ年いちねんの觀音のためは金貨融通の利を生ずるよと九百十二  
 万五千圓ありこれ九百十二万五千圓の元日より二十九日まで毎日商人の手を渡り利  
 より利を生じ孫利まご又孫利まごと日々倍々して元利二の乍あはれ繁殖はんじやくするゆへ一ヶ年の總計しゆんけいに  
 ては一億萬圓以上の益を生ずべし然らば淺草の觀音に及べる商法の全國中よりの類  
 なるべし一觀音と取除けその跡に桑茶を種くわえて生ずる利は一千圓に過ぎざる  
 べし然しかしその一千圓の利の大益と知れどもその一億萬圓の利の大益たるを知るもの  
 少し之と知らざるゆへにこの一億萬圓の一よりの廣く万人の手を渡りて暗かみに行ひるゆ  
 へ顯あきひ目に見えがたし故にその大益たるを知ること能はず之を暗行と名づく廣  
 く万人の手を經て此かた彼へ彼から此へと相傳へて行ひる、ゆへに十目に顯あきひ見え  
 ざたし故にその大益とると知ること能はず之と傳行と名づく三よりの廣く万人の手を

分ち散ちがゆへに顯ひふ十目見えがたし故よその大益なるを知ることを能はず之と  
 集行と名づく是も大益の十目見えがたくして却て無用とするゆへなり然も小益  
 小用の大益に似るゆへに夫も小益小用と一ふに顯ひる行われず暗行せざるゆへ衆  
 人々の益たるを知り易し二ふと直ちに行ひて 二人差し向ひ手渡し 傳行せざるゆ  
 へりの益たるを知り易し三ふの一様に集まり行ひて散行せざるゆへその益たるを  
 知て易し故よ今日世人の勉強して國益のため謀るところ多く小益小用に知らざ  
 るゆへ國家の大害を醸するもの擧て數へがたし因て一日も早く全國の經濟家この大用  
 の無用を似たる理を注意致し小益小用の行ひを翻さずんを果して傾國の憂ひ近きよ  
 めらん

蓋し小貧小害の知り易く大貧大害の知りがたきゆへんの理も亦之と異ならず大貧  
 大害の暗行。傳行。散行の三事ゆへに之を覺えず知らざるゆへに一人は千  
 萬圓の商損致するゆへに類でも益するゆへに痛く身に覺ゆるゆへに三千五百万人の類高は

て一千万圓の商損致しするゆへに難か之と苦しと身に覺ゆるものあらんや故よ其も恐  
 るべきゆへに全國の總人數の頭高めて致すところの大貧大損なり國と亡す貧のこ  
 の大貧あり

馬鹿の番附 [定價三錢五厘]

同 二篇 [同]

馬鹿番附の問答 [近日出版]

日近世太合記畫入 [定價拾錢]

唱歌粹の大藏書 [定價三錢]

俳優本名化の皮 [定價三錢五厘]

諸藝淨瑠璃本名化の皮 [同]

明治十一年二月四日届

原著兼出版人

佐田介石

東京淺草區森下町  
三十六番地桃林寺同居

明治十四年五月七日翻刻届

大坂府平民

翻刻人 加藤富三郎

西成郡西高津村百十一番地

大坂心齋橋鹽町

綿喜

賣捌所

同平の町心齋橋西

同支店

同

